

気負いすぎず 仲間や関係

ほうれんそう

機関との報連相を大切に

若手民生委員・児童委員 座談会

地域のひろば

“安心と安全の福祉のまちづくりを”

府社協 地域福祉部

TEL.06(6762)9473 / FAX.06(6762)9487

司会者



岡本 晴美さん
広島国際大学
准教授

本日は、1期目の民生委員・児童委員4人の方にお集まりいただき、委員になったきっかけや、やりがい、今後の抱負などについてお話を伺っていききたいと思います。

まず、活動の中で印象に残っていることをお話しただけですか。

仲間と何でも話し合える雰囲気大切に



渡邊 和子さん
枚方市

認知症の方への支援です。何度も訪問して2カ月くらいたってやっとドアを開けてくれました。なかなか話が進まず、もどかしく思ったり、どこまで踏み込んでいいか悩むこともありましたが、マンションの管理人さんや、ケアマネジャー、地域包括支援センターなど、さまざま

民生委員・児童委員を引き受けたときの思い

渡邊さん

以前から話がありましたが、気軽に受けられるものではなく、断っていました。前任者が体調を悪くされ、地域のために少しでもできることがあればと引き受けました。

高橋さん

子どもが小学生の頃は、PTAや青少年指導員などをしていましたが、この10年離れているなと思っていたところへ声をかけていただきました。ずっと住んでいる地域に恩返しをしたいとの思いがあります。

井上さん

もっと適任の人がいるのではと思いましたが、断れる理由がなくて引き受けることに。自分が健康であって、この地域に住み続けるのであればやってもいいかな、と思いました。

河合さん

定年後、介護相談員をしていたことから声がかかりました。生まれ育った地域で、これまでお世話になった方が高齢になっておられ、わずかでも恩返しができる。

元気で楽しく



高橋 博子さん
八尾市

な人にかかわってもらい、困った時は校区長に相談して助言を受け、最後に「つながったね」と言われた時は安堵しました。また、他の委員さんも問題に直面した時は、周囲の力を借りて問題を解決されているということを知りました。

岡本…あきらめず、丁寧に寄り添うことで「つながり」ができたのですね。

渡邊…自分の担当エリアは、マンションなので、雨でも風でもいつでも訪問できます。名前は知らずとも、顔見知りの人が増え、声をかけやすくなってきました。これから始まる安心カプセルの配布をきっかけに、私が民生委員であることを、もっと周囲に知ってもらい、頼りにしてもらえればと思います。

私は、主任児童委員をさせていただいています。子育て支援ひろばでは、様子が気になる方や、来られない方をフォローできるとおもっています。名前が、そうした方を見つけるのはなかなか難しいです。少しでもお声かけできるように、できるだけ地域の行事や公園などいろいろな所に参加することを心がけています。

最近、子育て支援ひろばでも、顔見知りのお母さんが増えてき

て、声をかけやすくなってきました。毎月楽しみにしていると言ってもらえるのがうれしく、次はこんな工夫をしてみようと、気持ちも高まります。自分もそうでしたが、子育て中のお母さんは、ちょっとしたことで誰にも言えず悩んだり、頑張りすぎていたり、あると思います。地域にそうしたことを話せる場をつくりたいと思っています。

岡本…前任の方からの引継ぎはどんな感じでしたか？

高橋…前任の方は、私が小さい時からの知り合いでもあり、主任児童委員になってからもよくかかわってくださいました。戸惑う時は相談でき、心強かったです。



細く長く続けていきたい



井上 香さん
高槻市

民生委員になって初めての研修のとき、市民児協会会長からの第一声が「必死になってやらないうように」というものでした。それほど前向きな気持ちで受けたわけではなかったのですが、「まずは自分の生活を大切にしよう」として、民生委員としてできることをやればいんだ」と肩の力が抜けました。活動してみたら、みんなに喜んでもらえますし、それが一番うれしいですね。

岡本…そうですね。自分のことや自分の生活を大事にできるからこそ、他人を大事にできるのですものね。

井上…また、ひとり暮らしの高齢者だと、買い物に困っていらつしやるだろうけれど、私にはそこまではできないし、「どこまですればいいの?」と思うことがあります。そんな時、「訪問先では一人で家にあがらないように」と言われ、「ここま

でと線引きをしかかかわってもいいのか」と気づいたことでも、気持ちに楽になりました。

先輩の委員さんからは、「一人で抱え込まないで」と言われています。だから、気になる方のことは、近くに住むママ友に「何かあったら私に教えて」とお願いしています。民生委員だからと自分がんばりすぎるのではなく、みんなで見守れる地域になつたらいいなと。そうやって、細く長く続けていければと思います。

本人が自分から行動する気持ちになることが一番

「周囲に自分が生活保護を受けているということが知られ、つらい、どうしたらいいか」という相談を受けたことがあります。「そういう人は気にせず、ストレスをためないよう、毎朝公園を散歩してみよう。顔なじみができたらそのうちあいさつをして話せるようになる。以前付き合っていた人には、必ずあいさつをして元気な姿を見せるように」とアドバイスをしました。その方はそれを続け、知り合いも増えたと感謝されました。

それから、こんなのを持ち歩いていきます。

：複数の数字が書かれた6枚のカードや赤白の紐状の輪っかを取り出し、数字あてゲームや手品を実演…



河合 静さん
高石市

「周囲に自分が生活保護を受けているということが知られ、つらい、どうしたらいいか」という相談を受けたことがあります。「そういう人は気にせず、ストレスをためないよう、毎朝公園を散歩してみよう。顔なじみができたらそのうちあいさつをして話せるようになる。以前付き合っていた人には、必ずあいさつをして元気な姿を見せるように」とアドバイスをしました。その方はそれを続け、知り合いも増えたと感謝されました。

それから、こんなのを持ち歩いていきます。

気になる人とは、こんな風に喜んでもらえるようなことをして、親しくなり、困ったことがあれば遠慮なく声をかけられるよう伝えておきます。地域包括支援センター等と情報交換しておくことも大切だと思います。そうしたら、いつまでも民生委員活動を続けられるような気がするなあ(笑)。

岡本…日常の営みを支える民生委員の活動は、日々積み重ねていくことが大切です。ぜひみなさん、気負いすぎず、息長く続けてください。

河内長野市

新たな情報ツールを活用した災害VC設置運営訓練を実施

11月30日(月)河内長野市社協と府社協の共催で災害VC設置運営訓練を開催しました(協力：国立研究開発法人防災科学技術研究所/コミュニティ・エンパワメント・オフィスFEED)。今回は、平時の見守り活動にも使えるeコミュニティ・プラットフォーム(災害VC運営支援キット)の活用による災害VCの省力化に向けた検証を行ったことが大きな特徴です。

訓練では、支援情報の集約や発信、ネット上でのボランティア受付、被災者ニーズのマップ上への登録など、外部への情報発信と内部連携における効率化の可能性を探りました。

当日は見学も含め約130人が参加。平時からの関係づくりの重要性を再確認するとともに、災害時にも、より地域に寄り添える活きた情報ツールとするために活発な意見交換が行われました。

府社協では、引き続き本ツールの効果的な活用に向けて検討を進めていきます。



府内社協運営支援者と河南ブロック社協職員の経験値を活かした検証訓練。

生命保険協会 大阪府協会
2社協に福祉巡回車を寄贈

11月30日、一般社団法人生命保険協会 大阪府協会から交野市社協と河南町社協へ福祉巡回車(計2台)の寄贈がありました。

同協会吉田和正会長の「地域福祉向上のために福祉巡回車をさまざまな場面で活用してほしい」とのご挨拶を受け、社協からは「高齢化が進む中で、在宅への個別訪問に積極的に活用していきたい」と述べました。

